

自己評価票

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	社会福祉法人善光寺大本願福祉会基本理念、川田の宿基本理念及び運営規程に理念を定めている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については、ケア会議時に職員と確認したり、館内の見える所に掲示し、いつでも確認できるようにしている。又、理念に基づきケアプランを作成しケアに取り組んでいる。事業計画にも反映している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念を活かした事業計画書及び運営推進会議の会議録を送付し理解を深めていただく工夫をしている。また、地域の代表者による運営推進会議にて理念、運営、ケア等について説明をしている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣のボランティアの訪問や散歩で出会う隣近所の人々と声を掛け合うなど交流を深めている。また、地域役員や入居者の知人で近隣者の面会字には、立ち寄って頂き、お茶等で交流している。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として自治会に加入。区費を支払っている。また、総会などに参加すると共に地区の作業にも参加している。お祭り、運動会などの行事に参加し交流を深めている。		

グループホーム川田の宿・北棟棟

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域から協力を得るだけでなく、地域への貢献も事業計画の目標として定めている。その為にも地域の高齢者の状況を知ると共に職員の能力向上を目標とした研修を実施している。	○印	認知症専門施設として地域の相談受付や情報発信ができる様、研修会や書籍等で知識の醸成を図り能力の向上に努める。又、今年度、広報誌を活用し認知症についての情報を発信する計画である。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価受審の意義について、ケア会議にて説明し理解を深めている。事業計画作成時にも指針として参考になっている。又、評価結果を真摯に受け止め改善を図っている。		ケアプランの3ヶ月での見直し、独自のアセスメント表の作成、記録の簡素化など今後改善の必要がある。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、地域密着型サービスとしてのグループホームのあり方や当事業所の概要、基本理念、運営、ケア内容などについて説明し質疑応答及び協議を行った。外部評価などの報告・協議は今年度の報告として定めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の市町村担当者として、地域包括支援センターの職員に委託している。日頃より地域の高齢者福祉の状況やニーズについて情報交換を実施している。また、入居者に影響する運営基準などについては、市担当者に相談及び質問している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修に参加している。特に必要と思われるケースには、制度の説明や活用を促す等している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての研修を受け、ケア会議で報告。事業所内での虐待については、記録や身体状況及び精神状態の把握に努めるなどの注意を払っている。また、介護の悩みや課題についての相談を受け防止を図っている。		

グループホーム川田の宿・北棟棟

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には、契約書および重要事項説明書を用い説明を行い理解、納得を得ている。また、不安、疑問点については重点的に説明し解決を図っている。長期治療による対処（解約）時には、継続した相談やアドバイスを実施することを説明し、不安の回避に努めている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を設置し、館内にその旨を掲示している。又、介護あんしん相談員の訪問を受け入居者の意見を聞いていただいている。また、日々のケアの中から思いを感じ取ったり、話しやすい関係作りに努めている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	広報を発行し入居者の生活や行事、職員の異動などを報告している。又、体調が変化した時や受診後の報告、外出などの行事参加の承諾、等は必要に応じ電話で行っている。遠方等で面会の機会の少ない入居者の家族には、月1回の領収書、請求書の送付時に金銭に関すること、簡単に生活の様子などをお知らせしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口設置要綱を定め、(苦情受付窓口設置など)入居契約時に文書にて説明、館内に掲示している。また、契約書にも同様の説明を記載している。苦情の訴えはないが、質問などには丁寧な説明を心がけている。また、面会時には事業所への意見や要望などを聞くように努めている。第三者評価の家族アンケートの結果を真摯に受け止め、運営に反映させている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議（リーダー会議・ケア会議）および個人懇談、日々の引継ぎなどで問題点、課題点の検討をしている。特に入居者の状態については、職員がもっとも関わりが深いことを尊重し、意見を尊重することを心がけている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者、介護支援専門員は柔軟な対応が出来るような勤務体制に努めている。（基準移乗の体制）また、必要時には勤務調整および超勤対応をしている。		

グループホーム川田の宿・北棟棟

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	会議や個人面談等で、職員の意見や悩みを吸い上げ、離職に結びつかないようにしている。又、職員の採用については、事前に実習に来てもらい仕事内容の確認や入居者の反応などを確認している。採用時に施設の特性から長期の就労をお願いしている。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立て受講を進めている。個人面談で個人の希望を聞き、必要に応じ研修に参加できるよう調整している。日々のケアの様子から、必要と思われる介護事項を確認、指導するようにしている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	個人が所属する機関(社会福祉士会・介護福祉士会)での交流、勉強会が主である。事業所としては、全国認知症グループホーム協会に加盟しているが、近隣に同業事業所が少なく交流の機会は少ない。	○	同業者との交流を図り、サービスの向上を図る。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	仕事にやりがいを持てるよう係などの役割を担当してもらっている。ストレスのかかりやすい職場であるので人間関係や個人の思いがしやすい環境を心がけている。	○	休憩時間の確保。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営、雇用等に対し、総体的に把握している。管理者と相談しながらアドバイスや評価を行っている。		

グループホーム川田の宿・北棟棟

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居決定に当たっては、自宅などを訪問し、入居希望者および家族と面談を実施し身体状況や生活の様子、悩みや希望を伺いその後の関わりに反映させている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居の申し込みが電話の場合は面談を実施している。来所いただいた際に館内を見て頂いたり不安な事項については確認している。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態と生活状態などについて把握する中で、必要と思われる支援を見極めアドバイスするようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	面接時にグループホームの説明をしたり、可能な方には下見に来て頂いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	特に若い職員は、調理について入居者に作り方を教えて頂いたり、味見をしていただいたり入居者の方をとて頼りにしている。入居者の方のそれぞれ自分の担当の仕事も出来ている。一緒に草刈などの作業で汗を流したり、人生経験豊かな入居者の方に職員が悩みの相談に乗っていただいている。		

グループホーム川田の宿・北棟棟

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の方が楽しんでいた事などもお伝えし、共有するようにしている。また、入居者の方の不安が強い時等は面会をお願いしたり協力をいただいている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居申し込みや入居前の面接時の情報や、介護支援専門員などの情報から家族関係を理解し、ケースに応じ支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人など親しくしていた方々との関係が継続するよう支援している。本人の会いたい人や行きたい場所を家族に伝えたり来訪者との関係作りに配慮している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事やお茶会、レクなどを通し、楽しい時間が共有できるよう配慮している。認知症や生活の違いにより互いに理解できにくい状況もあるが、職員がそれぞれの人間関係を理解し介在するようにしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院が長引き、契約解除されたご家族があったが、退院後の入居施設についての相談を受けたり、入院中の対応などを継続して行った。		

グループホーム川田の宿・北棟棟

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者本人の意思や希望をアセスメントや日々の生活の中から汲み取る努力をしている。家族の希望も参考にしているが、本人主体の支援を心がけている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族の方にサービス利用や生活歴、生活パターン、好みのもの等を伺い把握に努めている。入居後も本人、家族からの話や聞き取りにも重点を置いている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	アセスメント、日々の日誌、ケース記録などにより総合的な把握に努めている。身体が精神面に大きく作用することを理解し、把握に努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	アセスメントに基づき入居者本人の状況の把握に努めている。ケアプランの作成に当たっては入居者の希望は思い図るところも多いが家人や担当者の意見も聞いて作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現在6ヶ月に一度見直しをしているが、体調の変化や認知症の進行に伴い計画を変更している。	○ ケアプランの3ヶ月ごとの評価見直し。

グループホーム川田の宿・北棟棟

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	今年度より、介護計画に基づき記録できるようにした。ケアプランの実践、結果などの把握がしやすくなった。次回のケアプラン立案に活用したい。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が遠方の方にケースや、急な受診時など事業所で対応している。柔軟な対応を行うことができるような体制、工夫を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	お花見外出やおやつ作り、季節の行事(繭玉作り、やしょうま作りなど)の際、ボランティアの方にご協力いただいている。消防署の指導による消防訓練を実施している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望はないが、入居前に利用していた事業所を訪問したり、ケアマネジャーに訪問していただくなどして相談している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今のところ必要なケースはないが、運営推進会議の委員として会議に参加していただいているため、今後協働していきやすいと思われる。		

グループホーム川田の宿・北棟棟

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医および協力医療機関との関係を蜜にしながら医療的支援(上申、受診など)を行っている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の診断、治療の必要なケースについては、家人に専門医の受診を勧めている。必要な場合は受診対応(状態説明・服用後の症状報告・相談など)を行っている。処方箋薬の受け取り、支払いなども行っている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携体制を整備することが出来ないため、身体的変化、異変に対しては危機管理意識に基づき医療機関への相談、受診を常としている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	面会や電話にて入院状態の確認やグループホームの契約内容について説明するなど情報交換をしている。医師からの病状説明時に差し障りのない場合には同席させていただいている。家族遠方者については、入院対応(洗濯、支払いなど)を実施している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入院における終末期のケースの際、医師からの病状説明を受け、全員で病状の共有を図ることができた。また、面会も適宜実施した。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医に対し、グループホームの概要、能力について説明している。また、出来ること出来ないことについての説明も行い、利用可能な状態についての理解を得た。		

グループホーム川田の宿・北棟棟

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えによる不安やダメージを出来るだけ防ぐように、使い慣れたものを持ってきていただく、家人に面会を多く来ていただく、ケアマネに訪問してもらうなど顔なじみの方の協力を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報については研修を開所前、及び採用時に実施している。又、守秘義務同意書の提出を全員に求め、離職後も遵守を求めている。家人にも説明し情報伝達の際の同意を文書にて交わしている。広報誌の記事についても同様に実施している。入居者に対し、自尊心を傷つける言葉かけや対応をしないことをケアの基本としている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ケアに当たっては入居者の同意を得るようにしている。日常生活や表情などからも思いや希望を汲み取る努力をしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	誕生会や外出などの行事のない時は、その日の天候で散歩や畑に出る、レクをするなど入居者の意思を尊重している。寝ていたいときや延食したい時など支障がない範囲で意思を尊重している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	好みの美容院への予約や送迎を介助している。パーマを掛けたり染髪をしたりおしゃれを楽しんでいる。 日常の身だしなみについても感想を述べるなど意識するような働きかけを行っている。		

グループホーム川田の宿・北棟棟

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえ、盛り付け、配膳、食器拭きなど入居者に出来るところは手伝って頂き食事をしている。それぞれの分担も出来るようになってきた。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好については入居時に家族に確認したり、日頃の様子から判断している。嫌いな食材の時は代替品を用意したり、好みのものは多めに盛り分ける等している。喫煙される方はいないが、飲酒については行事時に配慮したり、希望時は出来る範囲で対応している。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄記録表を活用し、排泄パターンの把握に努めている。排便前の不穏などの様子が理解できるようになってきている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調によって入浴の時間を変えたり、発汗の多い方に入浴を勧めたり、排便を気にする方を最後にするなどの配慮をしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	朝の遅い方には朝はゆっくり休んでいただくなどの配慮をしている。疲れているような様子の時は居室で休むよう促したり、和室の利用を勧めている。テレビを見たりしてくつろいでいる方もある。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの方の生活歴を把握し、得意な作業を担当していただくよう配慮している。調理や農作業、洋裁、身の上相談などさまざまである。外出等もそれぞれの方の希望をお聞きしたり話の中から目的地を決め、楽しんでいる。		

グループホーム川田の宿・北棟棟

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことは自分の意思で選択できたり、管理する責任を持ったり等重要なことであると理解している。お金を持つことで混乱する方もあるが、希望の方には管理可能と思われる金額で買い物などを楽しんでもらっている。また金庫でお金を預かっていることを説明し、安心していただくこともある。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩の対応は日常的に行っている。日に何回も散歩に出る方もあるが、体調や天候の悪い時を除き、希望に沿うよう対応している。毎日の食材の買出しにも同行していただき買い物を楽しんでもらっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	春と秋に希望を取り、希望の所に外出・外食の機会を設けている。温泉や善光寺などの希望が多い。最近は美術館や歌舞伎を観に出かけ喜んでいただいた。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りはほとんど無いが、電話についてはできる範囲で支援している。		年賀状などのやり取りなどの支援。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問についてはいつでも受け入れている。時によりソファや和室でくつろいでいただいたり、居室を利用される方もある。事業所の特性もあり、家庭的な雰囲気になるよう心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないことを開設前・採用時の研修を行い周知している。安全確保などやむを得ない場合には「身体拘束同意書」にて家族に説明の上同意を得ることとなっている。		

グループホーム川田の宿・北棟棟

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害は理解している。入居者の著しい不穩の時は、事業所前の県道が交通量が多く危険なため門を閉めることはある。玄関に徘徊センサーを設置し、無断外出の多い方に携帯していただき対応をしている。玄関の中戸にも来客を知らせるチャイムをつけできるだけ施錠せず対応するよう努力している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に所在や様子の把握に努めている。入居者同士でトラブルの多い方などは距離を図る、見守るなどで回避している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	居室に関してはその方が管理できると判断した場合はそのまま様子を見ている。他の方の入室についても注意を払うようにしている。リビングなど全員が集まる場所では必要に応じ配慮している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書から事故の対応や防止策を検討したり、無断外出緊急時対応マニュアルを作成し、対応の参考にしている。アセスメントを行い、課題を明確にし、状態に応じた対応をしている。（付添、誤嚥、外出防止など）		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	開所前に全員で普通救命講習を受講している。急変時のマニュアルを作成したり、危険の予期される時期（正月の誤嚥・夏場の食中毒など）に会議などで確認をするようにしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地元の地区と「災害に関わる協力応援協定」を結ばせていただいている。地区の方には消防訓練に立ち会っていただくなど理解と協力を得るよう努力している。地区の総会でも区民の皆様に協力をお願いしている。		

グループホーム川田の宿・北棟棟

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時及びに面会時に生活の様子や予想できる範囲でのリスクの説明を行っている。体調の変化や精神症状の変化、薬の変更等のリスクも説明し相談している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日誌、ケース記録、チェック表、日々の引継ぎなどを通して情報を共有し、早期発見に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬状を見やすい所にファイルし、確認しやすいようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	研修や日常の生活から理解している。きな粉牛乳やビール酵母、冷たい牛乳など排便を促しやすい食品の摂取を勧めている。テレビ体操など定期的な運動も促している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔衛生の声かけ、見守り、介助などその方に応じて対応している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の大体の食事量は把握できている。摂取量の少ない時は一日を通しての摂取量を確認したり、本人の好みの食品を用意するなどしている。		

グループホーム川田の宿・北棟終

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルを作成し対応している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食事係を中心に衛生管理を行っている。調理器具・布巾・冷蔵庫などの整理・消毒の担当を決め毎日消毒をしている。新鮮な食材を毎日購入するなど管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	家庭的な雰囲気となるよう花を植えるなどの工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の写真や作品、花を飾る、季節を感じられるカレンダーを掛けるなど季節感を感じられるようにし居心地の良い空間を心がけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室やソファなどを利用してそれぞれ好きな場所でくつろいでいただいている。		

グループホーム川田の宿・北棟棟

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく暮らせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものをご用意いただくよう 説明している。写真やテレビ、仏壇、琴などそれ ぞれの方の使い慣れたなじみのものをお持ちいた だいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう 換気に努め、温度調節は、外気温と大きな 差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	毎日換気は実施している。外気温により発熱し やすい方、居室の場所が（向きなどで）暑くなり やすい部屋、寒い部屋などを把握し特に注意して いる。各所に温度計を設置し、管理をしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	廊下に手すりを配置し不安定な方でも歩きやす いよう配慮している。また、各所にあるベンチも 一休みに丁度よい様子で皆さん利用されている。 また、援助に関しては、残存能力を活かすよう配 慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	できるだけ本人のできることはやっていただく ようにしている。日常の中で、できることとでき ないことを見極め、できないところについては職 員で援助できるよう努力している。ケアプランに も立案している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	花壇やプランターの花の咲くのが楽しみな様 子。洗濯物を干したり、ベンチで日光浴をしたり し活用している。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

グループホーム川田の宿・北棟棟

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者の一挙手一投足に一喜一憂している毎日である。入居者の方の望む生活を支援することの大変さ、認知症ケアの難しさを感じている。職員が、入居者の方のちょっとした仕草や、言葉がとても重要なサインを送っていると感じられるようになってきており、より細やかなケアが出来るようになってきた。入居者の皆様に「もうひとつの我が家」と思っただけのよう家族や地域と連携を図りながら支援していきたい。